

# ミオヤの光

光明の巻

## 七 覺 支

- 一、擇法 擇とはえらぶこと他の念と想を捨て彌陀のみを擇み取りて思ふ弓を習ふに的のみあてるが如し
- 二、精進 精とは米を白らげる如く他の忘想のぬかを捨て、一心專精に佛の聖前にすゝみ
- 三、喜 一心他念なく佛の所に達すれば何となく内心に悦豫とてゆたかにうれしくなる
- 四、輕安 心が阿彌陀佛に乗つてしまふから自分からになる故に安々となる
- 五、定 一心が一つになりて彌陀と我と一枚板になる
- 六、捨 始めはよほど心を用なれば佛と離れるがだんだん熟すればひとりにて捨とて意を用ひぬともかなふ間に熟すれば自ら ふるなり

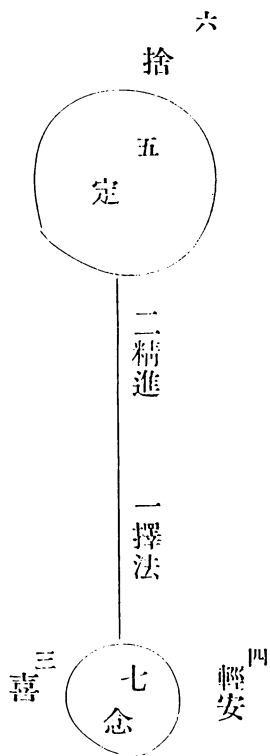
一

七、念 心によくしみこめば自分が阿彌陀佛になり藍に染みたる木線の如し

(佛)

(衆生)

二



## 無

無明霧れたる真如體、自性天真  
一大真神態、是十佛自境界、真如  
來、清淨法身  
衆生無明滅し真に歸する時は此  
一大心靈と冥合す

實體より發現せる宇宙現象の萬有物心  
二質、其量無限、十界三千無量の萬有に  
なるべき性能具備す

## 量

一大靈體、宇宙真理、無限光壽  
法身は眞理體にして一切を歸趣  
せしむる理性

宇宙現象界萬有體 因果律

一元より開發して六大乃至百千の元素  
たり

## 光

消極、無明及一切垢質消滅又靈  
體を覆るものなきに至る  
積極、自性天真、無限光壽、眞  
理體顯現す、歸趣の理性

萬有緣起空間的には無數星宿相互に網  
狀を爲し時間的に鎖狀をなし重々無盡實  
に帝網の喩の如し自然律因緣網狀因果關  
聯鎖狀

三

天則秩序統一理性、宇宙實體、一大原理體、

○體質、永恆自存、非物非心、精神態、即真如

○體量、絶對無限、徧時間、徧空間、○體具、無邊性德萬有理具

宇宙實體 法身如來藏性

消極、非空間時間、非物質、一切超絶積極、徧時間空間、徧動力、萬有は此一大本性を實體とし之に統一せられざるなし

之に因つて生じ又保存せられ歸趣の理性なり

宇宙真象、天真顯現する時の大自觀なり

無 大智慧光明、徧照法界、眞實識

知 大自觀、無限に寫象

邊 一大靈象 一切知慧 般若德無所不照

大圓鏡智、平等性智、妙觀察智

成所作智

大慈大悲大喜大捨等宇宙に遍し

一切に知見を興ふ

光

四

物心二象が無量の萬象となり

時間空間は主觀の形式なれば心象に外ならず

十界三千乃至萬有の象相五陰六根六識十二入十八界苦樂迷悟凡聖の身心土の象

宇宙現象萬象

萬有相關、物心二象は各其の本質が象に現はれ或は親和し或は反抗す、心象には愛憎と現る。

本質の關係より心象に及し心象が愛憎と現し之が動機となりて意志に行爲せしむ宇宙心の寫象を絶待寫象と云ふ

五

一切個人の寫象は全體の分なりと云はざるべからず

絶待寫象には物心二象の元なり此實象より開發して物心二象を生ず

實相無相 絶待寫象

宇宙萬象の天則の能く整へるを思ひ自然律が盲目の衝突より成立るにあらず自然智が存して爾るにあらざるとは思はれず又彼に絶待寫象なくして此によりて現れたる個人の智力あれば奇に非ずや

無 宇宙靈力、無上道徳態、一切處に周遍して一切を融化の性能なり

礙 一大靈能 一切能、解脱德無所不融

靈化の神聖正義恩寵を以て一切を靈化し靈的活動原動力となる報應身は此靈能の發現なり

光

現象萬有物心の二能力なり大にしては無量の星宿が悉く運動活歩小にしては至微の么類に至るまで各其の中に活動す。一切有機物として動ざるなし植物の根及莖をのばし又水の流れ火の炎の如き

宇宙現象、萬有能力、

人間の如き動物意志的に活動し善惡邪正の意力行動により三惡三善等身心土を作り是によつて變作す之を心造と名づく

六

七

宇宙實體の全能力が絶待意志即宇宙心の意志なり、天體太陽等の一切のエネルギーも本絶待能力の分なりと云はざるべからず

### 實能 絶待意志

宇宙萬有悉く活きて動ける一大元力は宇宙意志なり

有が曰く、彼活きずは我活きず

動の元動、活の元活

## 無

如來所見觀念世界、最終眞理靈界身心土即一體三義

自性天真、十佛自境界、眞神

無量光壽三身即一の體、十方三世諸佛會して一體、

世諸佛會して一體、

## 對

絶對神靈態 睿知世界

## 光

理智的に常寂光土。―智力的に大智慧光明土。―感覺的に清淨國土―感情的に極樂世界。―意志的に至善、無爲涅槃界。―秘密の故に密嚴世界―譬喻的に蓮華藏世界―至眞至善至美眞理靈界

一切衆生無始佛性具す

絶待理性中の宇宙現象界其一分なる太陽及び地球なり地球上生活せる衆生宇宙精神中の所産なれば理に靈性潜伏す此靈性は本一大靈性と一體なり

然るに衆生無明のため此眞理隠て自己の源を忘れ宇宙の實體を見失ひ感覺の方面のみを見て之を宇宙の眞相なりと謂へ

### 宇宙現象

り蓋し眞に背る故なり物理的世界觀器械的世界觀等之なり科學のみにて眞理盡せりと思ふ者の世界觀なり無明除き眞に向ふ時は如來眞我の中に入るを得て前段の世界觀と進む

## 炎

如來即ち一大心靈に三徳の光ありて一切衆生の三障を消滅す

一、法身、徳光、眞理の光所として實らざるなく衆生此理を背きて

苦の身を受く此の光に執りて塵に背き眞に向ふ

## 王

照破無明闇

二、般若能、一切慧、所として照さるるなし衆生の正見を開きて諸

の惑障を除く

三、解脱光 靈能が所として融化せざるなく衆生の心靈を化して道徳的行爲の力を與ふ

## 光

如來炎王光の三徳によつて衆生の三障を照破す

一、法身、眞理の光によつて衆生の垢質除く時は生死本不生不滅の眞理なりと證するが故に是法身の外ならずと知る

### 萬有

二、般若の光にて能く自己の煩惱の體を照しめれば全體是菩薩の體なりと知る

三、解脱の徳によつて三業を融化する時は一切の作爲悉く如來の道徳行となるなり如來の靈光により正知見を開き聖意的行動をなすに至る

如來炎王光の三徳によつて衆生の三障を照破す

宇宙本來一體なり衆生惑の爲めに真相を失ひ塵に向つて狂走す之に障をなす三あり

一、惑障、無明によりて明失ひ真相を見ず塵に向ひ主我を執し眞に背きたる知見が見惑を起し感情意志が我執より肉慾我慾起る

**世界無明塵界**

二、業障、罪惡が情操にあるを煩惱と名け現動するを業と名く自己と他人に對し身體及精神生活の發達に害をなすものを罪惡業と爲す

三、苦障、生、老、病、死、愛別離、怨憎會、五陰盛、求不得苦、身及精神の苦惱憂悲となり

**清**

如來の清淨皎潔なる靈性は宇宙の心靈界に充滿す此の清淨光に觸るゝもの心靈開發心靈美化

清淨國土は此光明の顯現なり五妙境界の至美莊嚴如來靈性より發

**淨**

**心理感覺作用**

現す一大心靈に一點の垢質なく純粹無雜の美的感性が普遍的に顯現せるなり

人の心靈が依身を脱して清淨の靈界顯現す

**光**

靈界顯現す

**歡**

如來歡喜の靈性は所として亘らざるなし即ち極樂の靈氣は宇宙心靈界に充ちて歡天喜地但衆生は生理的垢質の爲めに障礙せられて感すること能はず

**喜**

**感情、** 此靈光人の感情を融和し靈福を興ふ

極樂界は此の靈光の顯現する所最幸福と最高徳との一致する所至美の妙界自然微妙の樂のみなるが故に極樂と名く肉の快樂の比にあらず故に自然妙樂と云ふ

**光**

如來一切慧は所として照さざるなし全宇宙の眞性は如來の智慧なり此光り人の智見を開きて靈の眞理を示し如來の内容に悟入せしむ如來の眞境は玄妙不可思議一切に超絶す斯光のみ心眼を開きて其内容を啓示す

**智**

**智力**

極樂は眞理の靈界如來大智慧光明の顯現する所なるが故に智土と稱す故に此に轉する時は八識轉じて四智となる一切個々の體を現するも内面は大圓鏡智なれば彼土の聖者は一切智を得ざるなし個々の身あつて而して後智あるに非ず智體があらはれたる形相なり

**慧**

如來の歡喜光によつて人の天然の感情の垢質たる苦毒憂怖恐怖と又罪惡の状態より脱して如來の靈光に感する時は主我の小我を如來の眞我に歸命し無限の愛海に融合し自然微妙の快樂を感じ心情大我の中に安立し

**光**

平和歡喜内心寂靜にして新鮮の活氣を興へられ無限の感化は氣可の如くに心廣く體肝かに歡喜洋洋々として穹らす如來の一大靈性に繋れるが故なり

靈光は無限の妙味を以て心靈を養ふ靈氣を以て生を養ふ

如來の大智慧光明は普法界に遍くして照さるるなし衆生は無明のために之を知らず依つて八識即ち感覺界のみを識る然るに一び心靈開發して心眼開く時は如來の眞境を知見し内密を啓示せらる

**融和靈福歡天喜地**

**佛知見 啓示 悟入眞理**

如來の眞境を三昧の定中に觀するを得相好光明依正莊嚴四智四無量等を觀す又百千陀羅尼門百千三昧百千忍門乃至神通智慧等を發明す

**佛知見 啓示 悟入眞理**

如來の眞境を三昧の定中に觀するを得相好光明依正莊嚴四智四無量等を觀す又百千陀羅尼門百千三昧百千忍門乃至神通智慧等を發明す

# 不

如來一切能即ち無上道徳態は宇宙心靈界に徧し靈的行動の原動態となり斯光の勢力たるや衆生意志の劣神態を脱して神聖靈化して常恒不斷に靈的元氣を與へて活動せしむ

# 斷

## 意志

極樂は是常恒不斷如來の活動態なれば無爲涅槃界となづく  
無爲は消極にあらず無爲自然に活動するの義なり  
常恒不斷一大心靈の活動は無心に自然所として作さるるなく時として作さるるなきなり

# 光

# 難

如來甚深境界は玄妙不可思議自然界に超絶すカントが所謂純粹理性としては斯妙境は認識する能はず唯質賤理性のみ超絶の至善至福の靈界に入ることを得べし

# 思

若し自力によらば此に達するには無限の時間を要すべしとそは自然界と懸隔を示せり吾人は無明と顛倒の爲に如來真理の靈界を知見する能はず質賤理性心靈の窓を開く時は難思の靈界の靈氣によつて精神生活を得是境甚深賢聖も其實底を測る能はず故に斯名あり

# 光

如來一大心の勢力は常恒不斷に一切の所に活動の力を與ふ然れども現界衆生は之を知らず自己の目的のみにて行動す如來に最終真理の目的あるを知らず

## 靈化、菩提心的行爲

心靈に歸入する時は如來の目的に協力し靈化の心靈とし上ら無上佛位に向つて進化發達下一切を愛護し  
心靈の向ふ所唯如來の至善處に向つて行動す六度八正十善四無量四攝なり之が動くを四弘誓願と名く

人に靈性の潜伏せる理性せり如來不可思議の理をきゝ宗教衝動より切に神尊を憧憬し靈的欽仰慕念の堪へざるあり  
如來の真理は如何なる物と知らざるも自ら靈的憧憬の起るあり

## 神尊憧憬

又聖經に示せる依正二報功德莊嚴の相を開いて宗教的の要素となる朝に旭宇の登るを見て如來の光明を擬し昏に夕陽に向つて樂邦を遐想す聖名の聲に聖念する等

## 宗教心の初期人に遺傳恩寵あり之が宗教的衝動となりて其要素たる神宗の徳性をききて萌發す之が聖種となり五根を培養し五力を發達せしむ

## 恩寵喚起 第一期 資料位

豫信地をなすに三心あり其資糧に五正行あり日々拜禮し聖經を讀み如説修行し冥想觀念し常恒祈念し讚美し犠牲的行儀用意に四修あり恭敬修無間修無餘修長時修

# 無

一切に超絶せる真理の境言説に超絶し所謂四句を絶し百非を非すも又其真相を舉示する能はず  
一大心靈の甚深の妙味は無釋

# 稱

是の如く甚深の内容は唯佛と佛とのみ其の實を證し玉ふ人心靈窓を開く時は此の言説に超ゆる所の妙味によつて靈的生活することを得

# 光

初期に神尊を憧憬したるも未だ心窓を開かず未だ真相を見ず第二期心開發して靈を感ず是に於て感覺には感性清淨八面玲瓏歡天喜地入我々入

是の如き妙境は言語道斷  
聖靈内而實現  
主我亡し如來中の個人とし情操轉化を云ふ  
内面には靈實現したり此心理門の清淨歡喜智慧の靈感を得たるなり

## 聖靈内而實現

主我亡し如來中の個人とし情操轉化を云ふ

内面には靈實現したり此心理門の清淨歡喜智慧の靈感を得たるなり

第二期 三心四修五正行を以て常恒に靈性を修養し恩寵を内照す内部調熟して之を開發せんには推勵凝神以て開展を期すべし七覺支あり之心華開發の機關たり

恩寵開展 第二期 見道

恩寵開展の爲には神を凝して釋尊の樹下石上の坐禪キリストの四十日の修行心機開發して靈に入り大死一番更生せんが爲なり

導師般若道場等は此恩寵開展の爲なり靈感を得るを見道と名づく

超 日 月 光

一大心靈の能力が根本となりて一切に心靈活動の勢力を與ふ神聖正義恩寵の光正知を與へ惡を脱す靈氣の人の心靈を衝き良心を警告し道德律を制裁し此光を呼吸すれば乾坤を吞吐する勇氣と造化に肉薄する品性を養ふも亦難からず

人の心靈を開き靈眼を與へ靈化道德的行爲をなさしむる勢能なり神聖は犯すべからざる光を照し正義は自己の非を捨て善を取り恩寵は罪に亡びたるものを復活して靈に入らしむ日月の萬物を照し又成化するが如し

二〇

如來の靈光に心靈開發し一大心靈の分身として活動す靈光の勢力は一切を向上發展せしむべき性能なれば此主觀を靈化するのみならず客觀に發動して三業四威儀が自律的に正く

聖靈外面實現

四弘の願となり六度四無量四攝と顯れ如來の聖靈に靈化して靈の活動をなす釋尊が一點の斑なき生涯のそれは全く靈の客觀的實現に外ならず

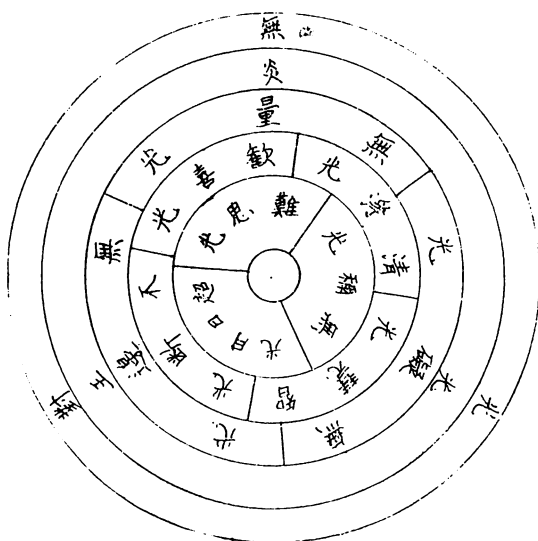
二一

第三期、信仰の目的は實行にあるを以て已に心靈開發し更生の後は如來指導の下に行動し八正十善六度の行四攝四無量等の利佗の行道徳的行爲を練習するを行位とす

恩寵實行 第三期 修道

練習せる徳行を以て向上進行するを向位とし靈化の意志にて三業悉く道德的行爲を以て自他を利益するを聖位と名く聖的行爲なり

絕對發展三三大一  
三大開展三個々一  
心機發現二四種  
象一個々發展起  
行三級



二二

二二

法身大にして處として  
統さゝるなし

般若大にして處として

照さゝるなし

解脱大にして處として

融せざるなし

アミは

世界一切十界三千の根底

アミは

世界身心土を統攝す

アミは

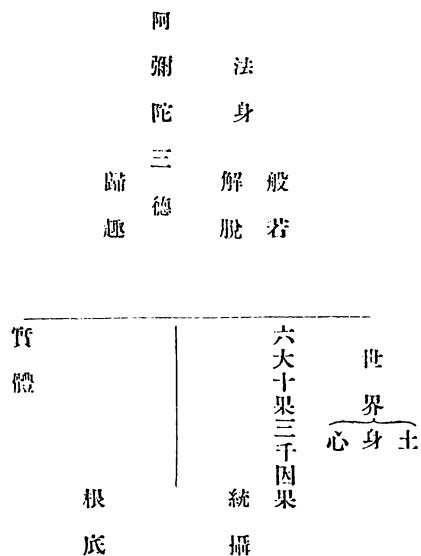
世界本體勢力の踏越する  
所なり

無邊光 般若徳  
相大

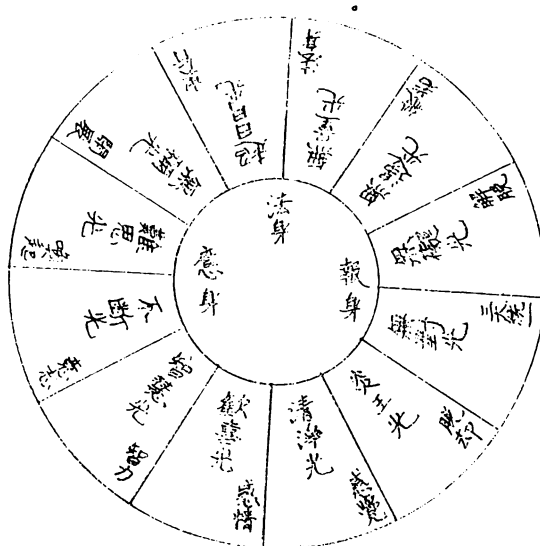
無量光

法身徳  
體大

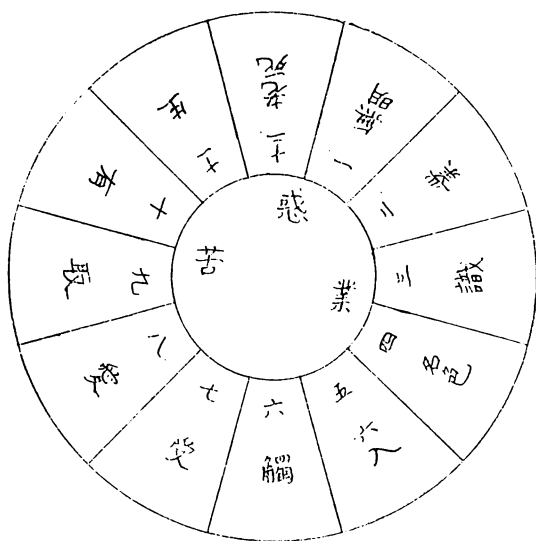
無礙光 解脱徳  
用大



出離生死解脱の  
性能



轉生流轉の因縁  
相關



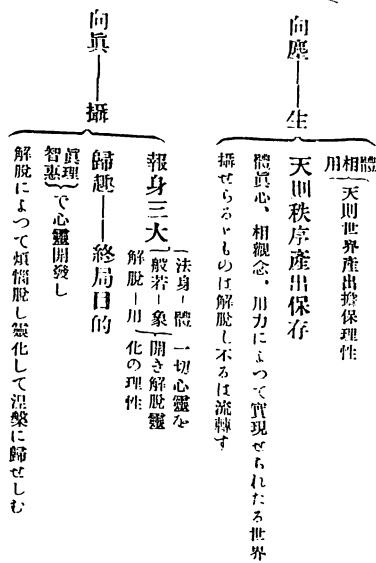
衆生惑に縁て  
業を作り業に  
縁て苦報を受  
く無明は業に  
縁乃至生は老  
病死の縁展轉  
して無始より  
生死無窮に出  
離ある事なし  
無明盡るが故  
に業盡き生盡  
るが故に死盡

# 無量光

體——絕對心靈——宇宙實體

二八

體質  
體具  
體質  
體具  
宇宙體質——絕對心靈——三大一方二面



# 無邊光

相

天則——天然生理規定主觀客觀  
相——絕對觀念態一切悉歸趣——心靈開發靈界即ち觀

俗——アヤヤ識——吾人が認識の境認而の如し  
大圓鏡智——觀念態  
（眞）觀念態  
心靈開きて觀念態の表の如し

俗——生理機能の動物と同じき自己及び種族生存の生類及び世界我々の如し  
平等性智——理性  
眞——心靈開きて個人の理性と一大理性、致一萬物一體生佛不二

俗——世間科學等の知識又意識又自然の啓示  
妙觀察智——微知照  
眞——佛知見開きて如來の内容を知如來内容法界周遍心意の開く處に啓示す

俗——物質的分子に對する感覺の性能  
成所作智——感覺態  
眞——心變的感覺的心像開きて感する五妙莊嚴依正二報莊嚴

二九

# 無礙光

用——如來解脫の靈能——無上菩提

三〇

神聖——無上智慧  
（如來眞理の光無上智慧無上の權理ありて人の心靈に對して無上道に向上せしむべき光）

宗教的——如來本願力を以て規律によつて衆生を攝取する靈能

# 無對光

實在靈界——至善至眞至美眞理の靈界——觀念態

恩寵

（天則には宇宙萬物を愛育し世に天の恩恵とは是なり）

正義

（如來靈能の力正知見性）  
（性）に隨ふものは選擇本願力によつて攝取せらるる主我は不正不義の根本の故に我をすて、  
（天則の方面には天道は正義にして善は賞まれ惡は賤まる正は明く邪は闇く反對の二面の中一方は）

絕對觀念態に存在す  
一切無明煩惱脱したる唯如來の界三身即ち三德致一十方三世諸佛聖尊を統一する唯一如來唯佛與佛十佛自境界

絕對觀念態——理想淨土

實在靈界——無對——絕對神靈態

佛身土——（ビルシヤナ）如來速化世界無量光如來及佛土（金色相好明清淨土應數莊嚴極樂世界大日如來密嚴國土）

娑婆即常寂光

世界焚盡さるも此土は安穩とは是なり

天則的——現象宇宙

宇宙は終局目的ある靈性を養はるべき如來照管の世界

三一



# 炎王光

法身般若解脫

三三

惑障 無明  
知力垢—光明照破す

佛

中諦  
中道觀  
終局目的

無量光

法身徳大無不統  
この光によつて法則自然  
歸趣して成佛す

衆生

俗諦  
假觀  
世界因果規定

世界には迷悟によりて四  
聖六凡となり善惡によつ  
て

十界因果規定  
三善三惡の因縁相係て果  
報を感ずる規定

苦障  
感情垢

業障  
意志垢

主我  
世界的動機  
幸福快樂主義  
善提心に隨る消極的の方面なり

心

眞諦  
空觀  
實諦

體大

絕對精神態  
實體は眞如法  
性の理體なり

三三

般若大

無邊光

無處不照

解脫大

無碍光

無處不融

無對光

歸趣

炎王光

因と縁と相待て貪瞋を生  
じ愛憎を起す

相待寫象

相待寫象

愛憎と貪瞋によつて意志  
を動かし善惡等行動を起  
し業によつて又果を受く

生理機制

十界十如三千

統攝

煩惱障

業障

報障

三四

一切寫象の原

象大

一切活動態

用大

三大統一

絕對眞心

根底

衆生の根元無  
明より三障に  
至るまで

三五

清淨光

五官と意との六機能は  
清徹になりて  
六根清淨  
清かにして内外に徹照  
す

感覺

感覺とは眼耳鼻舌身の  
五官の作用なり

是より三光は濟度の光  
難思光  
如來の聖意は何とも言  
ばにも思ひにも及びか  
たき

宗教憧憬

人の信仰の始めは未だ  
佛とはいかなる性質な  
るかば  
しらぬも何となくした  
しくありがたきものの  
やうおもふ

恩寵喚起

信仰のはじめてひきを  
こすは如來の事理をき  
くして  
朝夕の御禮平生の念佛  
又は經をよみなどして起  
す

この光と融合すれば内  
心歡喜悅豫をおこす

歡喜光

歸命  
安立  
融合

感情

内の苦樂等は感情の  
作用なり

無稱光

佛の聖旨は内心に感ず  
も人に言に詮す  
ことは出きぬ妙味なり

佛人合一

信心花開けば心のうち  
に如來の聖意と合一  
す身心は液不可思議

信機開發

信心開發すれば心の奥  
が自然と  
花ひらく如くになりゆ  
く

智慧光

佛智見開示

智慧光との關係に知見  
開きて  
佛の境界を知見する事

知力

人の心のすべて物の差  
別をしるを  
知力と云

超日月光

日月は萬物を生育する  
も人の精神を  
化することは能はず  
佛は人の精神を化す

聖意實現

已に内面に聖意をうけ  
得れば夫を身と口  
とに行動しあらはさざ  
るを得ず

實行

佛の思召を  
行動す

不斷光

多化菩提心

志の惡質か脱し佛の聖  
旨に變化す  
内は佛の心と相應し外  
はすべての人へ及ぼす

意志

心の活動  
善惡などは意志  
道徳も不道徳も

三身と三性

- 一、法身 無色無相にして萬物の本體一切世界の根底なり、横に十方に徧く(徧空間) 豎に三際を貫く(徧時間) 絶待精神態なり。
- 二、報身 圓滿報身、一切慧一切能、内には無邊無碍の智慧態にして外は衆生の爲に 是塵沙の妙色依正二報の莊嚴を顯現せしむる妙用あり。
- 三、應身 所有る世界に其國土の衆生に相應せる身相を現して爲めに攝取の恩寵を被

らしむ、釋尊の如し。

三性とは 一、圓實性 二、依他性 三、妄執性

一、圓實性、絶對純粹真心

二、依他世界性、第一より出て、物心二質となる水の濁りたる如く六大色心十界依正となる

三、十界依正一切衆は第三の自家保存性と共に特殊の性益々發展して善惡等の偏計自己妄執より起して其偏的發展のために無量の種類となる自己保存と偏的變態と又因縁資成力より無量に變ず

一切衆生は一々三質を稟く個體性のみにて第二性開發せざるものは下等動物、第二は社會的動物、第一は聖衆

聖衆は（絶對主義並に人類主義）第一理性を主として二三性を伴とす。第二は（人類主義國家主義 國家的、第一開發せずして内にあつて第二の保存に盡す。第三は利己主義其下は孤立主義の動物

第一絶對真心は本覺法身、一切衆生は之を眞體として靈を稟く之を佛性と云ふ。第二は世界質、吾人の肉による心質肉慾等は之を稟く肉と靈の調和より感覺感情記憶等の心質を稟く。第三は肉と靈との第一と第二とより稟けたる依他性なるを識らず國家的性質なり利己主義個人主義は第三性の病的なり

## 大乘教主

現今世界に行はるゝ處の佛教を先づ二つに分て南方と北方の佛教と云ふ。南方は小乘教にして暹羅ビルマ安南等に行はれ、北方佛教は大乘教にして、印度、北方支那、日本等に行はる。小乘教は現實を尊とみ、思想早く教理も淺近なり。教主を人格的にして歸趣す。處、空即ち偏眞涅槃にあり。大乘佛教は理想の高遠なる教理の甚深なることと小乘教とを天地懸隔す。此教に於ては理想高きが故に小乘の如き丈六雙垢の釋尊を

以て教主と仰ぐに足らざるものとし、即ち非人格、非物的に盧遮那即ち阿彌陀佛を本尊とす。信仰の歸趣する處精神界中至美至善の靈界即ち無量光明土を以てす。大乘教にては小乘に對する大乘四依の格言を作て曰く、

依レ法不レ依レ人 依レ智不レ依レ識

依レ義不レ依レ文 依レ了義不レ依レ不了義

と之を大乘四依義と云ふ。理想の進みたる大乘教を學し之を行するものは道俗を問はず之を菩薩と名づけ、小乘教には聲聞とす。小乘の人は理想卑近にして現實界を離れては佛あるを知らず故に人格の佛を以て中心とし歸する處は眞空界にあり。即ち色心共に滅したる涅槃界なり。大乘教は超物質界に絶對精神界の内容に法界無邊の清淨界を建設し之を淨土として一切聖者の歸趣する處とす。概して云はゞ大乘佛教は彌陀を中心とし無住涅槃を歸處とす。小乘教は釋迦を中心とし空寂涅槃を歸處とす。

今之を統一して彌陀は絶對無限の光壽即本體にして絶對無限の本體の個人現象即ち釋迦より。釋迦と彌陀とは用と體と本質と現象の兩方面なりと。其本體の内容は豊饒にして彌陀の本質内容には無邊の妙徳を具備し寂光土とも蓮花藏世界とも極樂界とも云ふ此内容を名けたるに外ならず。

若し彌陀を離れたる釋迦なれば大乘佛教の教主と云に足らず、釋迦を離れて此人間界に於て彌陀の聖意即ち實在を實現する事能はず。例ば自己の視覺に感覺したる光線を以て太陽の光線の及ぼす所同じく然るが如く釋迦に實現せる聖徳を以て絶對彌陀の聖徳を推して察すべし。

法華壽量品に明す所の釋迦の内而此彌陀無量光壽に外ならず。名に迷ふて眞理を失ふなかれ。若し此理に於て疑ふ如き妄信者は論するに足らざるのみ。又大乘非佛説の如きは今の所論にあらず。

光陰過逝くこと甚だ疾く先年御地に於て御別れ申して數ふれば已に四年の秋と相成候。

有髮仙益輕安にして佛仙の道を修しなされ候事大慶此事に候。愚薄西に東に雲水の定めなき身只悦ぶ處は

大ミオヤの大慈悲人の子等を憐みなされて、ミオヤの光に浴して靈に活復して光明の生活に入るもの、益加はる事を悦び申候。

さて御質問の

光明三昧と云ことは若し念佛三昧と云時は如來の相好等を見る見佛を所期と爲る事なれば此に簡みて光明三昧と云時は本より宇宙徧法界に照渡る光明なれども若し信心若しくは三昧開發せざれば本より彌陀の光明中に在り乍ら自ら識らず覺らず人生を闇黑の中に葬り去るに至る。此三昧を得んには矢張常に阿彌陀佛の大光明中に在る身なることを念して常恒に憶念して止まざる時は發得して光明中なる身なることを自覺するに至らん。

此光明を發得して靈に復活して初めて光明の生活に入るものとす。

若し見佛三昧と云時は佛の相好圓滿なるを見るに至らざればならぬと云時は人に依りては難きなり。光明に浴した光明に接觸することは易し。然し見佛と云ふも光明獲得と云ふも實は同じことなれども佛の相好を見ざれば見佛に非ずとおもふてむづかしく取る故に難きことと思ふ。

たとへば太陽は正に見へねども太陽の光明中に居る時は明るくまた暖温を感じる如く彌陀の光明中に入る時は難有辱なさを感じまた法喜禪悅の喜びと樂みを感じらる々また前は闇黒な夜には世界も見へぬ爲にせまく感ずるけれども明て明るくなれば天地も廣く見えるやうに信心の夜が明る時は光明中の生活にして心廣く體肝かになりて何とも云はれぬ感じを覺申候。

斯様な状態に入ること光明獲得と申候尙委しくは片紙に盡し申難く候。約して云はゞ自己が光明中にあるとの自覺を得るを光明三昧獲得と申候。尙申上度候へども後便に譲り候和南

松本佛仙道人御許

大正十三年八月十日印刷同月二十日發行

誌代年七冊壹圓貳拾錢 年十二冊貳圓

編輯兼發行人 山崎 辨成

印刷人 東京市小石川區茗荷谷町三十七番地 中川 退司

發行所 東京市小石川區水道端二丁目四十四番地 ミオヤのひかり社

振替東京六六八五一番